

東日本旅客鉄道株式会社

盛岡支社長 福田 泰 司 様

被災鉄路の鉄路での早期復旧を求める
緊急要望

平成 24 年 3 月 6 日

岩手県議会議長 佐々木 博

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災津波によって、本県の沿岸を縦断する鉄道路線が壊滅的被害を受けました。また、平成 22 年 7 月の土砂崩れにより不通となっている岩泉線は、未だ復旧の見通しが立っておりません。

このうち第 3 セクター方式で経営されている三陸鉄道については、各種支援制度の創設もあり、現在、鉄路での復旧再開を目指しているところであります。

一方で、御社各線については、八戸線において早期復旧に御尽力いただき、間もなく全線で運転が再開されるものと承知しておりますが、大船渡線や山田線は未だ復旧の道筋がついておりません。

こうした中で、バス専用線、いわゆる BRT (バス・ラピッド・トランジット) による再開がにわかに取り上げられ、鉄路の放棄ともとられかねない状況と被災地では大きな危惧を抱いております。

いうまでもなく、鉄路は鉄路として繋がってこそ大きな意味があるものであり、鉄路の定時性、大量輸送能力に加え、温暖化防止の観点で進むモーダルシフトからも鉄道に寄せられる期待は大きいものがあります。特に、少子高齢化が進む被災地では、住民の交通手段として、また沿岸地域の観光振興の観点から必要不可欠な路線であり、鉄路の復旧再開は被災地の復興に向けたまちづくりにおいて極めて重要な社会基盤として欠かすことはできません。

については、東日本大震災津波により被災した大船渡線及び山田線並びに土砂崩れにより不通が続く岩泉線について、沿岸地域が切に願う鉄路での早期復旧再開を図られるよう強く要望します。